

## 〈報告事項〉 添付書類

# 令和元年（2019年）度 事業計画書

（2019年3月1日から2020年2月29日まで）

### 〈2019年度の活動指針〉

- ① 公益社団法人日本油化学会の定款の下で活動を行う。また、将来構想委員会の提言に基づき、持続可能で活発な日本油化学会への脱皮を目指し、引き続き実践的な活動を推進する。
- ② 学術面では、第58回年会（後藤直宏実行委員長）を9月24日（火）～26日（木）に東京海洋大学品川キャンパス（東京都・港区）で開催し、年会改革推進委員会と意見交換しながらプログラム編成システムや運営システムの改善を進める。その他、専門部会、支部によるセミナー・シンポジウム・講演会等を開催する。これら事業の実施にあたっては、学術面で得られた成果を効果的に産業界に発信する一方で、産業界から油化学に求められているニーズを的確に汲み取ることを念頭におく。また、アジアなどを中心に、学術面での本会の国際的な発信力強化に取り組む。
- ③ 教育面では、フレッシュマンセミナー、実践講座、試験法セミナーなどの本部企画セミナーの改善を行い、より魅力的な内容にするとともに、専門部会、若手の会、各支部活動などにおいて、特に、若手会員の能力向上と会員増強に力を傾注する。さらに、年会における若手研究者の表彰などを通じて、学生や若手研究者の育成を図る。
- ④ 学術論文誌「JOS」は国際社会に貢献しているが、年会等に参加された海外研究者に総説論文を依頼するなどして、より知名度の高い国際誌を目指す。また、会員誌「オレオサイエンス」は、会員に役立つ情報誌づくりに努力すると共に、リニューアルしたホームページを利用して、会員はもちろん、国内外への敏速な情報発信に努める。
- ⑤ 社会貢献の一環として、一般財団法人油脂工業会館との共催で実施している市民講座（地区講演会）は、本年度も3支部が中心となり全国の地方都市で開催する。

## 1. 会務

### 1.1 総会

第65回定時総会を2019年4月22日（月）油脂工業会館において、代議員を社員として開催する。2018年度事業報告（報告事項）、2018年度決算案などについて審議し、2019年度の役員を選任を行う。定時総会終了後、総会報告会を開催し、定時総会および新執行体制について報告する。さらに2018年度日本油化学会の学会賞、工業技術賞および進歩賞、ならびに功績賞および女性科学者奨励賞の各賞の選考結果報告と表彰等を行う。その後、講演会ならびに懇親会を開催する。

### 1.2 理事会

2019年度の理事会の開催予定は5回。2018年度事業報告案および決算案の審議決定。2020年度の事業計画および予算の策定、2019年度諸事業計画の企画・実行、諸規則類の整備・改定等、重要案件について審議し決定する。

### 1.3 運営委員会

運営委員会の開催予定6回。運営会議は必要に応じて開催する。運営委員会および運営会議は理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の持続的な財務基盤の構築および活動の活発化につながる議論を進める。

### 1.4 業務委員会およびその他委員会

本会の業務を担当する総務、財務、国際交流、オレオサイエンス編集、JOS 編集の各委員会は、それぞれ公益社団法人としての内部体制と諸規則類の整備、収支バランスを踏まえた学会活動の財務的支援、海外の学術団体および工業会などとの共同活動推進、アジア中東地域での No. 1 学術誌を目指した国際情報発信の強化を継続して進める。また、企画・部会統括委員会は本部・支部・各専門部会が企画する講演会やセミナー等の事業の円滑な実施に向け、事業の内容やスケジュールの調整ならびに相互情報交換を進める。

## 2 事業計画

### 2.1 (公) 研究成果の公開、人材教育、研究の奨励及び業績の表彰を行う事業

#### 2.1.1 研究成果の公開

##### (1) 日本油化学会年会等の開催

2019 年度第 58 回年会は、後藤直宏実行委員長（東京海洋大学）のもと、東京海洋大学品川キャンパス（東京都・港区）において 9 月 24 日（火）～26 日（木）に開催する。招待講演、受賞講演、一般発表（口頭およびポスター）を行うとともに、専門部会主催のシンポジウム等を行う。

##### (2) 論文誌・会員誌の発行

JOS 編集委員会は、論文誌「Journal of Oleo Science」を 12 号発行する。オープンアクセスの維持、早期公開の継続、関連研究者への働きかけ等を通して、会員ならびに国内外研究者からの「JOS」への積極的な投稿を募る。また、オンライン投稿審査システムを基盤に、外国人査読者も増やし、国際的な投稿審査体制の一層の充実を目指す。アジア～中東地区での No. 1 学術誌の地位を確立することを目標に、Impact Factor の向上に努める。そのための方策として、引続き Review 論文や特集企画を増やしていく。剽窃チェックシステムや英文校閲を活用し、本誌の品格維持／向上に努める。また、学会、セミナー等で、本誌を展示／広報する機会を増やす。さらに、特に内外の若手研究者の交流・ネットワーク形成等の教育的支援を通し、将来的な JOS の「国際情報発信強化」に繋げる。

会員誌「オレオサイエンス」を 12 号発行する。オレオサイエンス編集委員会は、総説約 35 件からなる特集企画、若手研究者紹介、油脂関連情報、抄録、会務記事など有益情報の早期発信を推進するとともに、学術専門委員会との共同企画の Topics in Oleo Science の継続、会員が参画する紙面の充実など、さらに有用かつ魅力ある会誌づくりに努める。なお、デジタルアーカイブの WEB 公開／環境整備を継続する。

#### 2.1.2 人材教育

第 20 回フレッシュマンセミナーは、5 月に「油脂と脂質」、6 月に「界面科学と界面活性剤」をそれぞれ開催し、日本油化学会が編纂・出版した教本の普及に努めるとともに若手研究者の人材育成を図る。また関西地区においても 6 月にフレッシュマンセミナー-OSAKA (2019) 「油脂と脂質」を開催する。フレッシュマンセミナーを受講し基礎を身に付けた方々の次のステップとして、より実践的な、界面実践講座（7 月予定）、油脂実践講座（7 月予定）についてそれぞれ開催し、企業中堅研究者・技術者の人材育成を図る。若手の会については、前年同様「2019 年若手の会サマースクール」を 8 月に開催し、若手研究者・技術者の活発な交流を図る。

上記のフレッシュマンセミナー等の本部事業は年 4 回の企画・部会統括委員会の開催により企画、運営を行う。また、各支部、専門部会の事業において、それぞれのリーダーのもと、独自に運営を行うが、企画・部会統括委員長が年 2 回開催する全体会議でスケジュール調整、相互の情報交換などを行う。

#### 2.1.3 研究の奨励・業績の表彰

油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰する。若手の研究者を奨励するため、日本油化学会進歩賞、ヤングフェロー賞、学生奨励賞を授与する。また研究成果を表彰するため、日本油化学会学会賞、工業技術賞、エディター賞、オレオサイエンス賞、インパクト賞、ベストオーサー賞を授与する。また本会に貢献した会員の表彰も行う。

## 2.2 (公2) 評価・試験法の標準化と普及を行う事業

品質管理や研究開発を担う技術系職員および学生の一般知識の向上と評価・試験技能の向上を目的として、11月に第19回基準油脂分析試験法セミナーを開催し、日本油化学会が制定した試験法の標準化と普及を図る。また、昨年度装いを新たにスタートした界面実践講座については、引き続き今年度も試験法の普及及びより実践的な応用の視点から実施する。

## 2.3 (公3) 地域における学術の振興と普及を行う事業

各支部による講演会・セミナー等は、例年にならい開催する。また支部活動の一環である(一財)油脂工業会館共催の地区講演会・セミナーを、関東支部は10月に青森県弘前市で、東海支部は11月に岐阜県本巣市で、関西支部は10月に奈良県奈良市、11月に高知県高知市で、それぞれ開催する予定である。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を積極的に行い、地域における学術振興・普及に努める。

## 2.4 (公4) 学術専門分野の活性化事業

専門部会活動については、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、ライフサイエンス・産業技術部会、オレオナノサイエンス部会およびマスターズクラブの体制で展開する。日本油化学会活動の基盤は専門部会活動が担うとの共通認識のもと、常に独自性、さらにグローバル視点も意識しながら学術専門分野の活性化・強化に努める。各専門部会は部会長の指導のもと、専門性の追究と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー・講習会等の充実と定着化を図る。マスターズクラブは学際的な視点・分野横断的な視点も加えた活動を展開する。

以上

(428回 理事会決議)